Kamagaya International Friendship Association

K·I·F·A Plaza

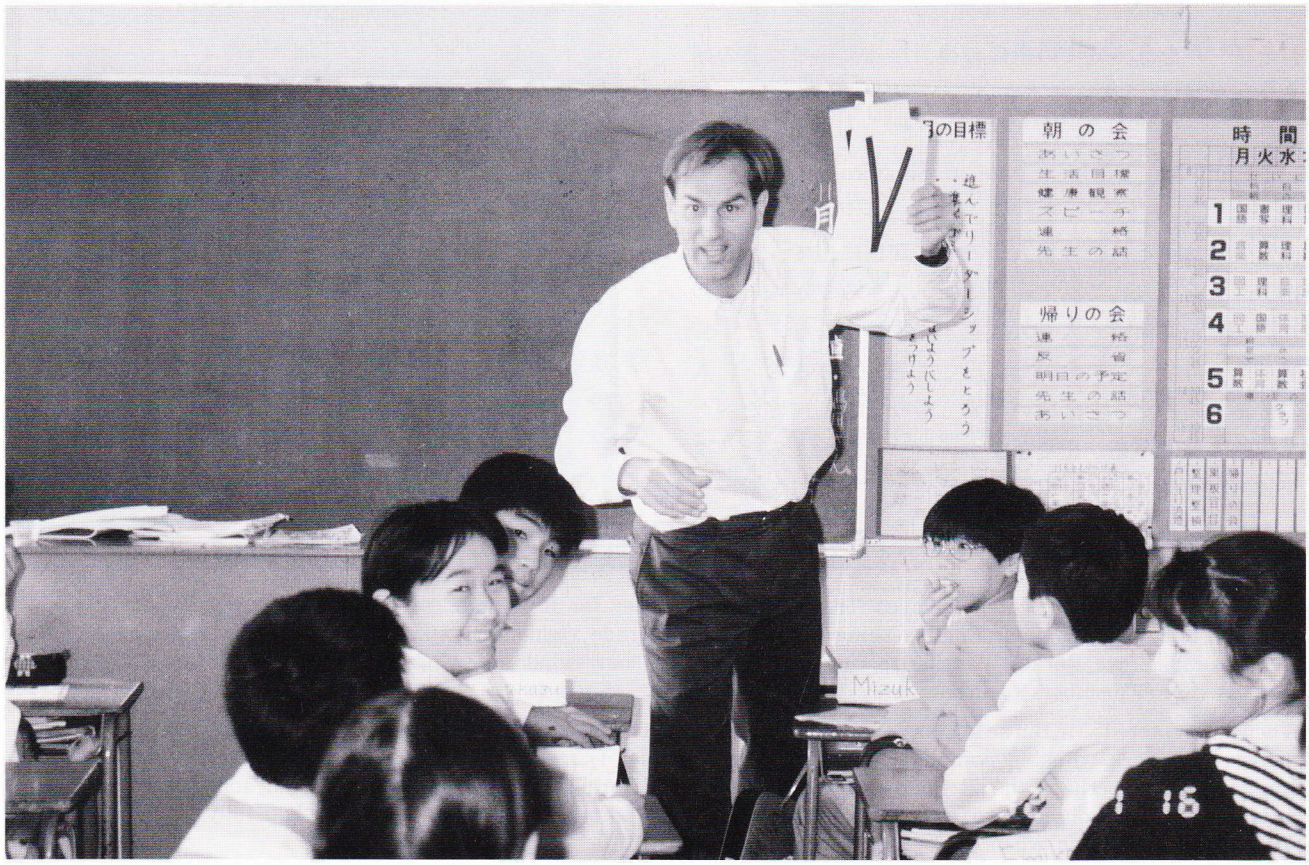
第16号

1992年12月21日発行
〈発　行〉
鎌ケ谷市国際交流協会

編集・広報部会

活動報告　1992年度 4部会 合同交流会

特別企画	新しい風	2・3面
写真特集	4部会合同交流会	4・5面
その他	国際交流に参加して	6・7面
	Miscellaneous Information	8面



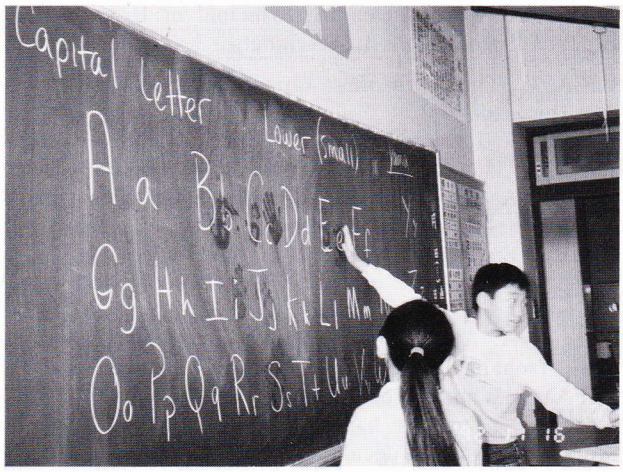
Kamagaya Elementary School receives foreign English teacher for first time.

小学校に外国人による英語授業

今年10月から、スティーヴ・バーク先生を迎えた鎌ヶ谷市立北部小学校に新しい風が吹き始めました。

市内で初めての試みである、「外国人による英語授業」を取り入れた北部小。この小学校にどんな風が吹いているのでしょうか。

6年生の生き生きとした授業風景を通してその様子をお伝えいたします。



新しい風

授業風景の取材の為、バーク先生の後について6年生の教室へ。途中、廊下で子供たちが気軽に先生に声をかけるのがほほえましい。

Mr. Burke：Good morning, class.
Students：Good morning, Mr. Burke.
B：How are you?
S：Fine thank you. And you?
B：Fine thank you.

全員、声をそろえての挨拶の後、早速英語の授業の始まり。今回は、「入って下さい。」の勉強。

I am Mr. Burke. Come in Shizuko.

先生のお手本の後、何人かの生徒が前に出て、自分や相手の名前を入れて話す練習です。先生みずからドアの外に立ち大熱演。一人一人に必ず話す機会を与えます。簡単な一言でも、自分の口に出して言ってみるのと、人の言葉を聞くだけとは違います。最初は自信無げだった生徒達の顔に余裕が出てきます。ゲームが始まると、クラスの雰囲気は一挨に盛り上がり、すっかり打ち解けたところで授業終了となりました。

会話中心で、正しい発音を学ぶ為のゲームを取り入れたこの授業に子供達の目は輝いていた。

この子達が持った英語に対する興味は、中学英語が始まった時に難しい英文法を学んでいくエネルギーに、そして外国人に対する気負いの無さは、成長して世界中の人々と語り合う時の支えになってくれるに違いない。英語との出会いが文法英語からではなくこういった形で持てるということは、北部小の子供達にとって大変幸運なことだと思う。

Kamagaya Elementary School receives foreign English teacher for first time.

Recently KIFA heard about English being taught to sixth-grade elementary students for the first time, by a native speaker, Mr. Steve Burke. Wanting to find out about this "new wind" blowing through the educational system, we sent two KIFA members to investigate. Here's their report:

When we entered Mr.Burke's class we noticed that the children semed very excited and happy. In Mr. Burke's classes, there are valuable points for students. For example: 1) students will be able to get used to being around foreigners, thus perhaps they'll not be so shy or afraid of foreigners when they are adults; and 2) these student's curiosity will be aroused by a first "happy & fun" contact with English. Thus, they will hopefully be more enthused about learning English when they enter junion high school.

Interview with Mr. Odagiri; Principal of Hokubu Elementary School. "International Understanding is meeting and becoming accustomed to foreigners."

KIFA. Q: This is the first time for Kamagaya to have a foreign teacher in one of its elmentary schools. Why did you think of this?
Odagiri. A: I wanted the children to get used to foreigners and develop a good attitude towards English.
KIFA. Q: How are the sixth-graders reacting?
Odagiri. A: Once a week when Mr.Burke comes, the students are looking forward to his visit. Mr.Burke sometimes speaks one-to-one with students so they are gradually becoming more relaxed. Best of all, students seem very happy to learn English, and because of this I am very happy.
KIFA. Q: Mr.Burke comes to your school once a week, Besides his individual classes, what is the impact on the school?
Odagiri. A: At first, the students, especially the smaller ones were afraid. But little by little as they got to know the personality of Mr. Burke they've changed. Now they rush to him, wanting to be near and shake hands.
KIFA. Q: What is your general feeling about this whole idea?
Odagiri. A: I'm very happy and very satisfied. Also, the entire staff is being very helpful and cooperative. I want to work very hard to decide what the school's students need, and then fulfil those needs.

国際理解とは……

外国人に接し、慣れる。
外国語に接し、親しむ。

北部小学校校長小田切邦康先生にお話を伺いました。

＊市内初という事ですが、どのようなお考えで始められたのですか？

国際感覚の育成がねらいです。これからの日本は世界と大きく関わっていきますから、子供たちが大人になった時に英会話が出来、外国人と対等に接する事が出来れば、それが生きていく力になると思うのです。それには、是非、北部小の子供達に生きた英語に触れる機会を与えてやりたいと考えたわけです。

＊６年生が対象ということですが、子供達の反応はいかがですか？

現在週一回の授業ですが、子供達はとても、楽しみにしています。バーク先生に親しみをもっていますし、授業中１対１で話す場合にも臆せず話す事が出来るようになってきています。基礎の基礎であるアルファベットの発音も丁寧に教えて下さいますし、母国語とする人から正確に学べるという事は非常に幸運なことです。何よりも、６年生の児童が積極的に学習している姿には感動を覚えます。

＊定期的に外国人が学校に来るという事は、学校全体に与える影響も大きいと思いますが……。

最初は外人というので、低学年の子供達は怖々見ていたようですが、バーク先生の人柄が分かってくると共に変わってきました。今では、廊下で先生に会うと、大きな声で、ハローなどと声をかけたり、後ろを付いて歩いたり、握手を求めたり、と非常に親しみを持っています。

＊最後に校長先生としての御感想をお聞かせ下さい。

大変うれしく思っています。職員室の先生方も前向きに取り組んで下さっています。今後とも、社会のニーズに答えられるよう、今、学校に何が必要かを明確にして、積極的に取り組み、開かれた学校となるように努力していきたいと考えております。

＊本日は、ありがとうございました。

Student's essays on studying English

please see pg. 5

北部小の６年生はクラスの３分の１の生徒が塾や教室に通って英語を習っているといいます。英語に対する意識の高さは、北部小だけではなく、現代のどの小学校にも共通するものでしょう。子供達は英語に対してどのような思いを持っているのでしょうか。生徒達の書いてくれた作文の中から二つの作品をご紹介します。

バーク先生と英語

"Mr. Burke and English"

北部小６年　篠崎　桜子
Eiko Shinozaki

五時間目、授業は、あいさつから始まります。あいさつも、もちろん英語です。「ハロークラス」とバーク先生は、やさしい声で、呼びかけます。そして私達も、「ハローミスターバーク」と返事を返します。それからが、楽しい授業の始まりです。バーク先生は、なれない日本語を、いっしょうけんめい話します。それを見ているといつも、すごいなあと思ってしまいます。

私は、英語をたくさん話せるようになりたいなあと思いました。英語は、いつ役立つか分かりません。例えば、外国の人に、道を聞かれたりした時、答えられるし、大人になって、外国に行くかもしれないからです。

私は、あいさつだけでも、きちんと英語を話なせるようになりたいです。バーク先生がきて、英語に、きょう味が持てました。

言葉というつながり

"English as a means of communication"

北部小６年　堀川　さくら
Sakura Horikawa

私は、五年生の時から、英語教室に入っています。私が、英語を習いたいと思った理由は、世界の人々との「交流」です。つまり、いろんな人とのつながりです。英語というのは、言葉という、つながりの一つです。だから私は、話すことが大好きです。でも、言葉をしゃべっていても、きれいな事だけでは、しゃべっている意味がありません。言葉の本当の意味は、自分の考えを相手に伝えるということです。

地球には、いろんな人種がいます。みんな、それぞれ、体の大きさ、髪の色や、ひ皮の色や、言葉に習慣、違うところは、たくさんあります。でも、その人たちと言葉で交流できたらどんなにすばらしいことでしょう。

私は、もっともっと英語の勉強をがんばって、他の国の人たちと、言葉でつながりを深めたいです。

4部会合同交流会

KIFA's four sections gather together for first time to socialize and exchange ideas.

派遣部会　もともと人数が少ない部会ですが、実際に活動の場に出てくるメンバーはさらに少なくなるため、常時出て来る人は休みたいのに休めない状態で、ただひとえに誠意によってのみ仕事をしています。幸いなことには、メンバー全員の年齢が気持ちも含めてですが、ほぼ同じで、社会教育に携わった経験のある人がほとんどで、ボランティア活動というものを理解する気持ちがあるという点でも一致しているため、今までに特に深刻な意見の対立というような事もなく和気あいあいになごやかに活動しています。

広報部会　部員は、全員で８名（当て職３名を含む）ですが、実質稼働人員は今年度、４名でＫＩＦＡ広報にあたっております。９月より嘱託のバークさんがお手伝いとして参加し、事務局に依頼する部分も多くなってきております。現在の鎌ヶ谷市国際交流は、正にＰＲの段階です。広報の内容次第で活性化が期待できます。関係者に原稿依頼収集・イベントの状況写真・各部会の活動状況写真の収集と年４回の発行に合わせて、活動しております。広報により、会員及び市内外の方にＫＩＦＡの活動がＰＲされることをご認識下さい。

研修部会　部員数12名、部会長を除き全員女性という女の館。部会は語学担当・ボランティア通訳担当及びイベント担当の３部門から成立っています。語学講座は通年で英語部門では初級２クラス、中級２クラス、上級１クラス、中国語部門では初・中級各１クラス開設しています。また、スポット講座としてスペイン語を開講中、12月からは外国人対象の日本語講座を開設しました。ボランティア通訳登録者34名、市内在住外国人のためのハンディインフォの作成や相談窓口で活躍中、イベント係は講演会や音楽会の企画で大わらわです。

交流部会　部会員28名、ヤンググループ10名、アダルトグループ18名の構成になっている。主に活動するのは、アダルトグループである。今年度から、プロジェクト方式で活動する事とするが、まだ、軌道にのるところまでにきていない面もある、それぞれが仕事を持ってのボランティア活動、難しいのは、交流部だけではないと思う。一人づつ喜んで参加出来るような、活動方法を更に考えて行かなければならない時期と思う。

新聞作りに
興味のある方
私達の仲間に
入りませんか

メンバー大募集！

KIFA PLAZA's volunteer staff.
New members are always welcome.

Won't you join us?

Student's essays on studying English

When KIFA talked to the students and read their essays about English education we found that about one-third of the students attended Juku, and that most of the students were very interested in English. Here are two excerpts of essays written about English and Mr. Burke's class.

"English as a means of communication"　Sakura Horikawa

I have been learning English privately since grade five. I believe that English is a means of communication for many people in the world. One reason I want to learn English is to be able to communicate with foreign people. I think this would be a very wonderful thing to be able to do. Therefore, I'm going to try to study English very hard.

"Mr. Burke and English"　Eiko Shinozaki

Mr.Burke's class starts with a gentle voice saying: "Hello class", and from there we go on to have an enjoyable class. Mr. Burke tries very hard to speak Japanese; it's very difficult for him. I think that it's very encouraging that even a teacher wants to learn a new language, so I want to learn a new language too. I think English can be very useful. For example to help foreigners with directions, or, when I grow up, to visit other countries. I think it's important to learn correct English. Since Mr. Burke came, I really want to learn to speak English well.

県国際交流活動セミナーに参加されて

9月中旬に千葉県国際交流活動セミナーが開催され、講演及び外国人の日本語スピーチ、そして「日本語教室を通した国際交流」と題して、シンポジウムが行なわれました。鎌ヶ谷市の国際交流協会からも通訳ボランティアの大和田弘子さんが、シンポジストとして参加されました。

――シンポジウムの対象者はどんな人

勿論、国際交流活動に関心のある全ての方ですが、主催・後援の中心が県の教育委員会、県国際交流協会、ユネスコであった為に各市の国際交流協会員、教育委員会メンバーや先生などが多く参加されていました。

――シンポジウムの内容は

日本語教室を通した国際交流という題からもおわかりのように交流協会及びボランティアで外国人に日本語を教えている立場からの意見、そして反対に教わっている外国人の方からの意見など実態を交えながら、話し合うというものでした。

――シンポジストとして出られたきっかけは

鎌ヶ谷市にも海外からの、特に南米からの外国人がふえてきています。主にブラジルやペルーからの人達ですが、その子供達に昨年から市内の小学校で日本語を教えるようになりました。県下の他の市でも外国からの子供が増えてきていてその対応に暗中模索というのが現状で実際に子供達に教えている状況を話してほしいということから出ることになりました。

――こどもたちの日本語教室を通して

日本語を教えているというよりポルトガル語を使ってリラックスした場をもってあげようというのが第一なのですが、それでもすぐコミュニケーションがとれるようになるのが子供の柔らかいところですね。昨年は南部小学校で5～6人の南米の子供達にボランティアで日本語を教える機会がありました。それをきっかけに今年度から正式に南部小で専任の先生による日本語クラスができました。よかったと思っています。又、やっと日本に慣れたと思うと2、3年で帰っていきます。自分の学年の勉強に追いつくことはとてもできませんが、せめてやさしい日本語の会話と日本で暮らしてよかったなと思ってもらえれば本当にいいと思います。それと計算のしかたが、かけ算九九でも、わり算でも南米流では時間もかかるし正確さにも欠けるので、日本の計算のしかたを身につけていくとおまけができていいですね。

華道を通して国際交流

富田　照子

平成4年10月22日～31日迄、船橋市の姉妹都市であるデンマーク・オーデンセ市へ「文化交流と姉妹都市親善使節団」の一員として参加しました。これは、私が船橋市華道連盟に所属している関係でお誘いを受けました。一行は、文化人60名、一般応募者、市役所の関係者等総勢109名という大きな団体となりました。

オーデンセ市では、市庁舎のホールを使ってのイベントが先発隊の方々に依って、舞台作りから花展、お茶席等の設営がなされていました。私達は、到着と同時に着物に着替えて展示のお花の活込みに引続き一般市民に活花の手ほどきに汗を流しました。2日間のイベント用に用意された80ケの剣山も初日で殆んど無くなってしまう程の盛況振りでした。

翌日も予定より1時間も早くお花が無くなってしまい残念がって帰って行かれた方々も大勢いらっしゃいました。お茶の方も大盛況で列になって順番を待っていました。舞台では、琴の合奏・舞等々、両市民一体となってのイベントに言葉の壁等何の障害も感じないで、文化の交流ができた事を深く感じました。

1日目の夜は、イベントの後オーデンセ市の用意され

た夕食会場に行って驚きました。会場に豚舎が作られ子豚が一匹。鶏舎に３羽の鶏。机は、細長く並べられ向い合わせの席の椅子は何と藁をかためて作られたベンチ。昔のドンゴロス（麻袋の布地）のポンチョにロープの腰紐。プラスチックの兜と刃。全員これを身に付けて着席すると昔々のデンマークの農民姿。アイデアに苦心の跡が見え、そのもてなしの心に頭がさがりました。

２日目の午後は、朝からのイベントに続いて多くの市民の方々がホームビジットの受入れを申し出てくださり夫々２～３人に分れて市長による晩餐会迄、デンマークの家庭の雰囲気を楽しみました。

最後になりましたが、デンマーク・オーデンセといえば何はさておき彼の有名なアンデルセンの生れ育った地。

博物館は、徒歩２分位の近さで忙がしい間隙を縫って行ってきました。よく手入れの行き届いた昔のままの平家でした。

素朴な家々のガラス窓は、ピカピカに磨かれ、きれいなお花が外を通る人々の為に並べられていたのが、何とも印象的なデンマークの旅でした。

身近な国際交流

坂田　佳枝

10月１日から７回にわたって、中央公民館で「身近な国際交流」と銘うった講座がひらかれた。ＫＩＦＡより講師を依頼された私は、11月12日の最終講座を終えた今、責任を果してほっとした気持にひたりながらも懐かしい受講生の笑顔に会えない淋しさをかみしめている。

講座のタイトルからもわかるように、これは、鎌ヶ谷市周辺に住む外国人対象のもので、日本語そのものを学ぶというよりは、日本語を通して鎌ヶ谷市での生活上の約束事等の理解を深め、地域の人々とのコミュニケーションの機会を拡げるというものだった。まず最初の難問は、日本語が全然わからない外国人にどのようにしてこの講座そのものの存在を伝えるかという事であった。これに関してはＫＩＦＡ研修部の協力で、案内書が数ケ国語に翻訳されるという事でかなりの効果があった。とにもかくもこのような講座は公民館にとっても又私にとっても全くはじめての事であり、何から何まで試行錯誤の連続であった。しかし「案ずるよりは産むが易し」のことわざ通り、講座の初日を終えて、いろいろな心配事が一度に消えていったように思う。受講生は、フィリピン、中国、ミャンマー、オーストラリア、アメリカ各国からの11名。彼らの日本語力は、ほとんどの女性が、日本人男性を夫としていた事から、すばらしいもので、日常会話にはまず困らないというものであった。中には２、３名、日本在住期間が２年未満という受講生もいたが、ゆっくり話せば簡単な事は理解できる日本語力だった。

さて、この講座そのものが日本語を文法的に教えるものではなく、交流を深めるものだという点では、７回の講座は成功したように思う。講座を通じて出席率はきわめて良く、90％以上であった。クラスの中での発言も全員がとても積極的で、前向きで、いつも笑いがみちあふれていた。この積極性という点では、我々日本人は見ならうべきである。英会話を学んでいる日本人の多くが受身で、講師がよほどすすめない限り発言しないという場合があるが、そのようなはがゆい気持を今回は、一度も味わう事がなかった。ミニバスに乗っての鎌ヶ谷市内めぐりでは、クリーンセンターでのゴミの分別が興味を集めた。また、消防署では職員のみなさんの大サービスで全員がはしご車のはしごの一番上までのぼる事ができ大いに感動し鎌ヶ谷市の全景をたのしんだ。実際に日本の伝統的な茶道の茶のたて方にも挑戦し、庭の木や花を用いてのいけ花にもチャレンジした。すべての試みに彼らの前向きな姿勢が反映されていてこの講座をたのしいものにしたようである。

最終回に受講生全員に感想を書いてもらった。彼らに共通の感想は「友達を作ることができて、本当に良かった。」というものであった。日本語能力に関しては、すばらしい彼らの多くが、やはり人との出会い、ふれあいを一番楽しんだという事がよくわかる。ある感想に「鎌ヶ谷の人達が本当にとても親切で、やさしいのがよくわかった。だから私は日本にずっと住んでいたい。」というのがあり、本当にこれこそこの講座の真の目的だったと思う。まわりの人々とのふれあいがどんどんこれからもふえ続け、鎌ヶ谷在住の外国人、ひいては日本に住む外国人の生活がより happy になる事を願ってやまない。

最後に、この講座を通じて全面的に協力してくださったＫＩＦＡ研修部の皆さんに、感謝の意を表したい。みなさんの協力なしには、この講座はなりたたなかったのです。どうもありがとうございました。

鎌ヶ谷市姉妹都市提携推進委員会の動向

鎌ヶ谷市交際交流協会は、市民レベルの国際交流活動の活性化をめざし姉妹都市提携の早期実現に向けて、姉妹都市調査プロジェクトを編成して、独自に調査研究を重ねて具体的な候補都市も含めた「姉妹都市調査プロジェクト報告書」を1992年５月６日に鎌ヶ谷市長あて提出いたしました。

これを受けて、文化・スポーツ・教育・経済・産業等市民レベルの交流事業の可能性を含め、市民の意向が反映された姉妹都市の選定をするため９月29日に鎌ヶ谷市長（皆川圭一郎）の委嘱を受け姉妹都市提携推進委員会（岡田猛委員長以下16名）が設置されました。

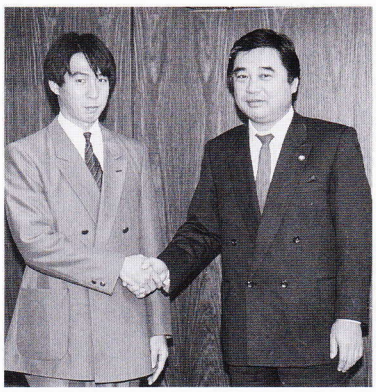
国際交流協会から、佐々木武二郎会長と・秋山秀一副会長を委員として選出し、他にも岡田猛理事（体育協会）、田澤進二郎理事（市議会）、板津邦彦理事（自連協）、皆川岩雄理事（ロータリークラブ）と選出団体は別にしても多くの国際交流協会関係者が委員として参画し、鎌ヶ谷市にふさわしい海外の姉妹都市選定に向けた調査研究や提携後の交流が円滑に運ぶよう、交流形態の検討を進めています。

これまでは、国際化の背景から姉妹都市提携の基本的な考え方をまとめ、選定基準を①英語圏の国②人口規模③治安の良い都市④経済的に鎌ヶ谷に合った都市⑤距離的に近い（時間的・交通）⑥交流の可能性⑦市民の合意の得られる都市を基準に国際親善都市連盟や各国大使館から多くの情報を収集し、選定作業に入っています。

委員会は、今後も月１回のペースで会議を重ね、来年３月に中間報告、12月に最終報告をする予定です。

新たなる世界との出合いに、情熱を燃やして

青年海外協力隊、平成４年度第２次隊員〝建川　大輔さん〟市長を表敬訪問



青年海外協力隊（平成４年度第２次）の一員として参加が決まった、建川大輔さん（鎌ヶ谷市初富本町在住）が、去る11月27日に皆川市長を表敬訪問しました。建川さんは、フィリピンへ赴任し、電子計算機関係の指導に当られるそうです。席上、市長の激励を受けました。尚、鎌ヶ谷市・ＫＩＦＡより記念品、餞別金が贈られました。

12月７日に日本を出発、今頃は、汗を流し、情熱を燃やして活躍されていることでしょう。ことばや生活習慣の違いを乗り越え、健康に留意されて頑張ってください。

The Mayor of Kamagaya says farewell to Daisuke Sugawa, who is leaving for the Philippines as part of the Japan Overseas Co-operation Group. Mr.Sugawa has volunteered to teach the use of calculators in the Plilippines for two years.

Handy Info（外国人向けインフォメーション）できあがる

Kamagaya's new "Handy Info" flyer is ready for pick-up

今週、研修部会の通訳ボランティアメンバーにより、Handy Info が作成されました。在留外国人の方が活動しやすい街づくりのため、地域の情報や行政にかかわる情報を提供し、また、地域住民と同じレベルで快適な生活を送って頂くための一助として作成したものです。

鎌ヶ谷市に在住している外国人の方が、日常生活に困ることのないように、生活情報や市内の案内等をイラストマップにして、わかりやすく、より多くの外国人の方に有効に活用して頂きたいと思います。

お　知　ら　せ

来年２月13日(土)、14日(日)に開催される「少年サッカーフェスティバル」にＫＩＦＡが後援します。

当日は、サッカー教室や国際交流試合など盛りだくさんの内容。詳細は１／15号のかまがや広報にて。

問い合わせ先は――

鎌ヶ谷市教育委員会生涯学習部社会体育課

Tel　45―1141(内)481まで

編　集　後　記

今回は市内の小学校に御協力いただき、授業風景を取材し、写真を撮り、校長先生にインタビュー。にわか新聞記者は大奮闘。協力してくれた子供達の写真や作文を少しでも多く載せてあげたい気持ちと、限られたスペースとの間で、悩みながらの紙面作りでした。北部小のみなさん、ありがとう。